

●ギリシャ悲劇『オイディプス王』研究(2013-5-30)

【解説】

- ・古代ギリシャ三大悲劇詩人の一人であるソポクレスが、紀元前427年ごろに書いた戯曲。
- ・ギリシャ悲劇の最高傑作
- ・アリストテレスがその著『詩学』で絶賛。
- ・フロイトの「エディプス・コンプレックス」の語源。

=====

【あらすじ】

物語の舞台は古代ギリシャ。

テーバイの国王、オイディプスは、かつて勇者として他国から迎えられた王であった。

その折、国王オイディプスは、自らの国、テーバイにふりかかる災いに悩む。そして、その災いの原因が、過去の国王殺害事件にあり、殺害犯は、いまだ国内にいることを、預言者によって知る。そこで、オイディプスは、先の国王殺害犯を処刑すべく国内を捜索する。

しかし、捜索するほどに、その犯人が実はオイディプス自身であることが否定できなくなってくる。さらに、自分は産みの母と交わって子を儲けていたかもしれないと考える。

=====

【登場人物】

(テーバイ国に由来する人)

- ・ライオス(男) = オイディプスの父(テーバイ国の先の王、※劇中には登場しない)
- ・イオカステ(女) = オイディプスの母(テーバイ国の王女)
- ・クレオン(男) = イオカステの弟(ライオスの死後、国をまとめる摂政)
- ・テイレスシアース(男) = 預言者
- ・アンティゴネ(女) = オイディプスの娘の一人。

(コリントス国に由来する人)

- ・オイディプス(男) = 現在のテーバイ国の王。しかし、自らが「テーバイ」で生まれたことを知らない。捨て子の彼をコリントス国の王が育てる。オイディプスはコリントス王が実の父と思っている。自らの宿命の予言を聞いて、コリントス国を出る。怪獣スフィンクスを「なぞなぞ」で倒した功績で、テーバイ国の王に迎えられる。二男二女の父となる。

=====

【参考】

●しんたく【神託】

神が自分の判断や意志を巫女(みこ)などの仲介者、あるいは夢・占いなどによって知らせること。神のお告げ。託宣。「ーが下る」

(web goo辞書「神託」より)

●ティーヴァ(この物語の舞台テーバイの現在)

「〔古代ギリシャにおいて〕アテナイやスパルタと覇権を争った最有力の都市国家のひとつである。また、多くの神話の舞台としても知られる」

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/ティーヴァ>)

=====

【使用 DVD】

「オイディプス王 アテネ公演」、蜷川幸雄(演出)、野村萬斎・麻実れい(主演)、発売：角川エンタテインメント、2005年。